

学校教育目標



須和田が丘

夢 に向かっていく生徒
命 を大切に作る生徒
絆 を互いに深め合う生徒

令和4年度
学校だより No. 29
令和4年10月27日

市川市立第二中学校
校長 石田 清彦

ホームページ <http://www.dai2-tyu.ichikawa-school.ed.jp/>

合唱祭について

10月14日に開催しました合唱祭には、多くの保護者の皆様（356名）にご参観いただき、ありがとうございました。現在、生徒用タブレットのTeams内「22年度一合唱祭保護者配信用」で視聴いただけますので、お子様のタブレットでログインしていただき、ご視聴ください。

マスクの着脱について

今月はじめに岸田総理大臣が、マスク着用のルールを含めた感染対策のあり方について検討していくことを明らかにしましたが、改めて、「マスクの着用は屋外では原則不要」と強調していました。

夏場については、熱中症の心配から、適宜マスクを外していましたが、ある専門家は、寒さが本格化する冬は、マスクによる「隠れ脱水」に気を付ける必要があると言っています。

日本救急医学会などによりますと、体内の水分は絶えず呼吸や皮膚からの蒸発などで失われており、健康な成人では1日に約900ミリ・リットルほどになるそうです。

冬場は特に大気の乾燥が強まって皮膚などからの蒸発が増す一方、喉があまり渇かないために、脱水に気づきにくいそうです。

さらに、常時マスクを着用していると、マスクの保湿効果によって、喉の渇きがさらに感じとりにくくなり、着脱が面倒なことから水分補給の回数も減りがちになって、脱水が起きやすくなる可能性があるそうです。

現在、厚生労働省では、屋外の場合は、季節を問わずマスクの着用は原則不要としており、徒歩や自転車での通勤、通学など、人とすれ違う時も不要としています。

また屋内においても、距離を確保して行う図書館での読書や芸術鑑賞は、マスクの着用は必要ないとしており、マスクの着脱を適切に行う意識を、一人一人が高めていく必要があります。

以前、高槻市の小学校で、2月に体育の授業で5分間走を行っていた小学5年の男子児童が、倒れて亡くなるという事故が報道されました。市教委などによりますと、男児はマスクをつけて授業に臨んでいたとみられますが、走っている最中につけていたかは不明で、死因との因果関係も分かっていないそうです。

一般的には、マスクをした状態で5分間走を行ったとしても、マスクが直接の死因になることは考えにくいそうですが、マスクを着用していると、汗や口から出る空気で湿気が増え、呼吸がしづらくなって、運動の負荷が高くなる可能性があるそうです。そして運動の負荷が高くなると、心肺機能が発達途上にある小中学生などは、突然病気を発症する可能性もあるということです。

令和2年度のスポーツ庁の通知では、「学校における基本的な感染症対策として、学校教育活動の際はマスクを着用し、特に近距離での会話や発声等が必要な場面では、飛沫を飛ばさないようにマスクの着用を徹底することが適切です。」としている一方、「運動を行う際にマスクを着用する場合、十分な呼吸ができなくなるリスクや熱中症になるリスクが指摘されております。このような運動時のマスク着用による身体へのリスクを考慮して、学校の体育の授業におけるマスクの着用は必要ありませんが、体育の授業における感染リスクを避けるためには、地域の感染状況を踏まえ、児童生徒の間隔を十分に確保するなどの対策を講じることが必要です。」と言っています。

学校ではこれまでも、運動時、特に屋外ではマスクをはずすように指導をしてきていますが、様々な理由から、マスクをはずすことに戸惑いのある生徒も少なくありません。

ぜひご家庭におかれましても、これらのことを踏まえて、マスクの適切な着脱について話し合ってくださいと思います。

保護者の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。